

令和6年度住之江区運営方針の進捗状況と 今後の方向性について 【育む部会】

経営課題1 【子どもたちが輝くまちづくり】

めざす成果及び戦略

- 1-1 【子どもたちが笑顔で育つ環境の実現】 … 4
- 1-2 【子どもたちの「生き抜く力」の育成】 … 7



経営課題1 子どもたちが輝くまちづくり

すべての子どもが、個性豊かにたくましく育ち、夢と希望を持って学び、
区民が安心して子育てができる環境の実現

令和6年10月15日

1-1 子どもたちが笑顔で育つ環境の実現

将来像

すべての子どもが誰一人取りこぼされることなく
必要な支援を受けられる状態

課題

こどもサポートネットの充実、子育て世帯への切れ目のない見守り環境の整備

P4

▲ この将来像に向けて2つの取組を進めています

【具体的取組1-1-1】 支援が必要な児童、生徒への取組

取組

児童や保護者のニーズに合わせた必要なサポートを関係機関と連携し実施
＜課題＞ 支援にあたり保護者の同意を得るのに時間を要するケースがある。 ＜方向性＞ 児童や保護者ニーズの把握と NPO 法人等関係機関との連携強化を図る。

P5

【具体的取組1-1-2】 全就学前児童への切れ目のない見守り環境の整備

取組

子育て支援室・地域保健活動担当を中心に妊娠期から就学まで切れ目のない支援、大阪市版ネウボラやこどもサポートネット等状況に応じた支援の提案
＜課題＞ 子育てに関する情報が入手しやすくなるよう取組をすすめる必要がある。
＜方向性＞ 引き続き、子育ての情報や相談の機会をホームページやSNS、広報紙等を通じて効果的に発信する。

P6



1-2 「生き抜く力」の育成

将来像

子どもたちが「生き抜く力」を身につけ、自分らしい
未来を切り拓けるよう学ぶことができている状態

課題

学習意欲の向上に向け、学校や関係機関等との更なる連携

P7

▲ この将来像に向けて2つの取組を進めています

【具体的取組1-2-1】 児童、生徒の学力向上に向けた取組

取組

少人数体制での理解度等に合わせた学習支援、放課後の課外授業の実施
＜課題＞ 学習支援事業の参加者数増加に向け、さらなる周知の必要がある。 ＜方向性＞ 学校及び事業者と連携し、効果的な周知機会を確保する。

P8



【具体的取組1-2-2】 チャレンジ精神や課題解決力を身につけたり、学習の目的を見つけたりする機会づくり

取組

未来に向かって挑戦する力や解決していく力を育む授業プログラム等の実施
＜課題＞ チャレンジ精神を育む講座の実施手法に工夫が必要である。 ＜方向性＞ 学校の授業の一環として実施できるよう、関係先と調整を行う。

P9

令和6年度 住之江区運営方針

区の目標(何をめざすのか)

- 子どもから高齢者まで、住之江区で暮らし、学び、働くすべての人が、自分の将来に夢と希望を持って、地域など、周りの人々と幸せに暮らすことのできるまちをめざす。
- 住之江区の名前の由来のとおり、すみよい区、すなわち“e-SUMINOe”を「めざす将来像」とする。

区の使命(どのような役割を担うのか)

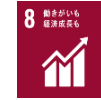
- 地域と共に進めるまちづくり
 - ・区民意見の反映 ・地域活動協議会、NPO、企業等の交流促進 ・若い世代との協働
- ICTを活用した情報発信の充実
 - ・分かりやすい広報 ・多様な手法を活用した情報発信

令和6年度 区運営の基本的な考え方(区長の方針)

- より安心して子育てができ、未来を担う子どもたちが夢と希望を持って学ぶことができる環境づくり
- すべての人々が住之江区に愛着をもち、自分らしく暮らせるまちづくり
- 自助、近助、共助、公助による備えのできた防災力の高い、安心して暮らせるまちづくり

経営課題1 子どもたちが輝くまちづくり

【主なSDGsゴール】



めざすべき将来像(最終的なめざす状態)〈概ね10～20年間を念頭に設定〉

未来の担い手であるすべての子どもが、家庭や地域で愛されながら、個性豊かに、たくましく育っていくよう、区民がより安心して子育てができ、子どもたちが夢と希望を持って学ぶことのできる環境の実現をめざす。

課 題

【子どもが笑顔で育つ環境の実現に向けて】

- 本人や家庭への支援が必要な児童、生徒に対し、こどもサポートネット事業の充実など、社会全体で支える仕組みを強化するとともに、周囲の目が行き届きにくい就学前の子育て世帯に対しては、切れ目のない相談、サポートが可能となるよう、見守り環境の整備を進める必要がある。
- 子育てに関する様々な支援や相談窓口、交流の場の機能充実を図るとともに、これらに関する情報が、直接子育て世帯に分かりやすく、効果的に伝わるよう関係機関との連携やすみのえ情報局やSNS等の活用など、情報にアクセスしやすい方法を検討する必要がある。

【子どもたちの「生き抜く力」の育成に向けて】

- 放課後等を活用した学習の場の提供や学習意欲の向上、学習習慣を身に付けるための支援など、児童、生徒の学力向上に向けた取組を充実する必要がある。
- 子どもたちが自分で未来を切り開いていけるよう、将来に向かって自ら挑戦する精神や課題を解決する力を身につけたり、学習目的を見つけたりすることができる機会を提供していく必要がある。

【めざす成果及び戦略1－1】

子どもたちが笑顔で育つ環境の実現

経営課題1 子どもたちが輝くまちづくり

めざす状態

【令和3～7年度の5年間】

区役所、学校等各関係機関と地域や民間の区内のこども支援に取り組む様々な主体の連携協働のもとで、さまざまな子育て支援や相談に関する活動が展開されることで、未来の担い手であるすべての子どもが、誰一人取りこぼされることなく、支援が必要な場合に必要な支援を受けられる状態。

計

戦略(中期的な取組の方向性)

指標

画

- 妊娠・出産期、乳幼児期、学齢期、青少年期の各ステージに応じて切れ目なく子育てをサポートするとともに、課題を抱える家庭、子どもへの支援などを行う。
- 子育ての悩みを皆で相談しあったり、子育てに関する有益な情報が確実に簡単に入手できる環境の整備を進める。

- 令和7年度末までに、区民アンケートで現在、子育てをしている人(妊娠中を含む)のうち、「住之江区内で子育てについて相談ができる場があることを知っている」と回答する割合60%以上
- 年間を通じて重大虐待事案が発生しない状態の継続

【具体的取組1－1－1】

支援が必要な児童、生徒への取組

経営課題1 子どもたちが輝くまちづくり

計画

取組内容

指標

- 学校等と連携し、支援が必要な児童を発見するとともに、児童や保護者の状況や悩みを傾聴し、地域による子ども支援の取組や、児童支援に取り組むNPOなど民間の取組を含めた利用可能な支援を提案し、児童や保護者のニーズに合わせて利用に向けたサポートを行う。

- こどもサポートネットにおいて、区役所がアウトリーチできたケースのうち、支援につながった割合 75%以上

取組実績等 ー9月末時点ー

- 学校・保育所・幼稚園等と連携し、児童や保護者の状況や悩みを傾聴し、児童や保護者のニーズに合わせて必要なサポートを関係機関と連携し継続して行っている。
- サポートが必要なケース(こどもサポートネット対象者を含む)への対応数 527ケース(8月末時点)
- こどもサポートネットにおいて区役所がアウトリーチできたケースのうち、支援につながった割合 100%(8月末時点)

方向性の確認

課題

- 保護者・児童への支援について、保護者にサポートやサービスの提案を行うが、同意を得るのに時間を要するケースがある。引き続き民間資源やサービス等つなぎ先の充実と多様なサポートが必要である。

方向性

- 学校等関係機関との連携により、支援を要する児童等がとりこぼされることのないよう発見に努め、児童や保護者のニーズを把握し、NPO法人等の関係機関との連携を図る。
- 令和7年度継続実施

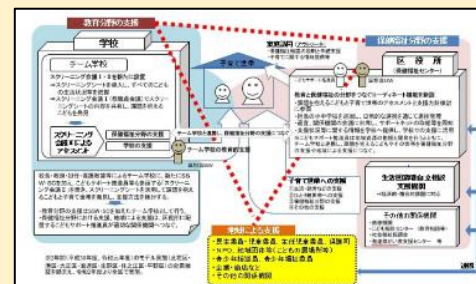
進捗状況：予定通り

クローズアップ ー取組の解説ー

■こどもサポートネット

- 学校における気づきを区役所や地域につなぎ、社会全体で支える仕組み

支援が必要な子どもや世帯を学校において発見し、区役所等の適切な支援につなぐ仕組みを構築し、区長のマネジメントにより、社会全体で子どもと子育て世帯を各種施策により総合的に支援する取組です。



全就学前児童への切れ目のない見守り環境の整備

計画	取組内容	指標
	●乳幼児健診や、地域担当保健師・子育て支援室等による相談対応、保育所(園)・幼稚園等との連携、4歳児を対象とした訪問等を通じて、妊娠期から就学に至るまでの間、切れ目なく子どもの状況を把握するとともに必要な支援を継続して行う。 ●特に2歳児を養育する保護者にハガキを送付し、子育てに関する困りごとで相談・連絡があった保護者に対して家庭訪問を行うなど、個々に応じた必要な支援につなげる。また、「手続きケアプラン」を母子健康手帳交付時に配布し、妊娠期から就学前までに最低限必要な手続きや相談先の情報を時系列にわかるように支援を行う。 ●子ども・子育てプラザをはじめ区内の子育てに関わる各種機関と連携し、子育てマップ(年1回)や子育て情報紙「わいわい」(年12回)を発行するとともに、子育て層がアクセスしやすいよう、HPやSNS、デジタルマップなどICTを用いて、子育てに関する有益かつタイムリーな情報発信を推進する。 ●区役所子育て支援室において、保育士・保健師・家庭児童相談員による子育て相談を継続する。	●子育て世帯保護者アンケートで「子育ての相談先を知っている」と回答する割合 40%以上

取組実績等 —9月末時点—

- 妊娠婦、乳幼児健診(3か月・1歳6か月・3歳)、支援対象者へのサポートプランの作成及び交付、4歳児を対象とした訪問など、妊娠期から就学まで切れ目なくこどもの見守りを行うとともに、地域担当の保健師・子育て支援室等による相談対応等を行い必要な支援を実施
- 2歳児を養育する保護者へ6・9・12・3月の4回に分けてハガキを発送(予定) 137通送付、13件相談対応(6月末現在)
- 妊娠期から就学前までの最低限必要な手続きや相談先などを掲載した「手続きケアプラン」を母子健康手帳交付時に配布 273件(9月19日現在)
- 子育て世帯に子育ての情報が届くよう二次元コードを掲載したチラシを、助産師、保健師等の新生児全戸訪問で配付 280件配付(8月末現在)
- 子育て情報紙「わいわい」(月1回)を発行するとともに子育てサロンの情報など区ホームページやSNSを通じて情報を発信
- 区広報紙「さざんか」7月号に、妊娠期から就学までの子育てを切れ目なくサポートできるよう、子育てに関する情報や悩み相談の相談先を掲載。同9月号に、10月に実施する保育施設等の利用申込みとオンラインによる受付予約に関する情報とともに、スマートフォン等から簡単に適宜情報が入手できる、子育て情報満載の「すみのえ 子育て博覧会」などの二次元コードを掲載。

進捗状況：予定通り

課題

- 誰もが気軽に相談できるよう、また、必要とする子育てに関する情報が入手しやすくなるよう取組を進める必要がある。

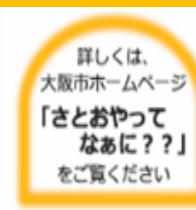
方向性

- 引き続き、子育ての情報や、子育てに関する多様な相談の機会をホームページやSNS、広報紙等を通じて効果的に発信する。
- 令和7年度継続実施

クローズアップ —取組の解説—

■里親ってなあに？

病気や経済的困窮などさまざまな事情により、家庭で暮らせない子どもたちがいます。そうした子供たちを深い愛情と理解をもって自分の家庭に迎え育ててくださる方を、「里親」といいます。大阪市では、数日～1か月間など、比較的短期間の預かりを必要とするケースも多く、短期の養育里親さんを大募集しています！



【めざす成果及び戦略1－2】

子どもたちの「生き抜く力」の育成

経営課題1 子どもたちが輝くまちづくり

めざす状態

【令和3～7年度の5年間】

社会が多様化する中で、子どもたちが「生き抜く力」を身につけ、自分らしい未来を切り拓けるよう学ぶことができる状態。

計

戦略(中期的な取組の方向性)

指標

画

- 地域や民間との連携のもと、誰もが安心して勉強ができる環境の充実を図り、学習を楽しむ体験をすることで、学習意欲が向上するよう促す。
- 知識だけでなく、学ぶ意欲や、課題を見つけ解決していく力を養い、将来の夢や目標に向かってチャレンジする気持ちとやり抜く力を育む。

令和7年度末までに、全国学力・学習状況調査等のアンケート結果における区内中学生への「将来の夢や目標」に関する質問に対する肯定的な回答の割合70%以上

【具体的取組1－2－1】

児童、生徒の学力向上に向けた取組

経営課題1 子どもたちが輝くまちづくり

計画	取組内容	指標
	●放課後の学校施設を利用し、大阪市習い事・塾代助成事業を活用した民間の塾事業者との連携による課外授業（基礎学力アップ事業）を週2回程度行う。加賀屋塾（加賀屋中学校）、南港塾（南港南中学校）、真住塾（真住中学校）、住一塾（住吉第一中学校）、安立塾（安立小学校）、学びひろば住吉川（住吉川小学校）、住之江塾（住之江小学校）、ひら子塾（平林小学校）、新北島塾（新北島小学校）、みなみ塾（南港みなみ小学校）において実施する。 ●こどもサポートネット事業の対象となる児童などに、学校やスクールソーシャルワーカー、福祉関係者等と連携し、それぞれの理解度や特性に合わせた少人数体制での学習支援を小学校施設で行う。	●対象児童・生徒に対するアンケート調査において、「この事業に参加してよかった」という問いに対し、肯定的な回答の割合 70%以上
方向性の確認	取組実績等 ―9月末時点―	
	<基礎学力アップ事業>（8月末時点） ●小学校：安立塾40回、学びひろば住吉川36回、住之江塾34回、ひら子塾0回（申込無）、新北島塾20回、みなみ塾34回 各回1～15名程度参加 - 中学校：住一塾39回、加賀屋塾39回、南港塾37回、真住塾37回 各回5～25名程度参加 計316回実施 <放課後学習チャレンジ教室事業>（8月末時点） ●小学校5校にて学習支援を実施、2校調整中	
	課題 ●基礎学力アップ事業について、令和5年度より新たに小学校でも実施しており、参加者数の増加に向けさらなる周知の必要がある。	方向性 ●参加者数の増加につながるような効果的な周知方法等を検討し、学校及び事業者との連携強化に努める。 ●令和7年度継続実施

クローズアップ ―取組の解説―

■民間団体や企業との連携による学習支援・学習指導を実施しています

- ・区内小学5・6年生と中学生を対象とした「基礎学力アップ事業」は事業者と区が協定を締結し、大阪市習い事・塾代助成事業を活用して受講できる塾を区内小学校6か所、中学校4か所で運営しています。
- ・区内小学生を対象とした「放課後学習チャレンジ教室事業」は、事業者と区や学校が協力し、児童の状況に合せた少人数制の学習支援を行っています。

基礎学力アップ事業の様子



【具体的取組1－2－2】

チャレンジ精神や課題解決力を身につけたり、学習の目的を見つけたりする機会づくり

経営課題1 子どもたちが輝くまちづくり

計画	取組内容	指標
	●キャリア教育の一環として、小中学生を対象に、プログラミング的思考(論理的思考力)を育むことで思考力・課題解決力・判断力・表現力等の資質・能力の育成をめざすプログラミング教育を題材とした体験学習を開催する。 ●将来の夢や目標に向かってチャレンジする気持ちを育み、子どもたちがこれからの社会を「生き抜く力」を身につける機会を創出する。	●体験学習に参加する児童・生徒対象のアンケートにおいて、プログラミングへの関心や体験学習の理解度について肯定的な回答の割合 70%以上

方向性の確認	取組実績等 ―9月末時点―	
	●すみのえ未来塾 第1回(8月7日) 参加6名(申込9名) 第2回(8月19日) 参加5名(申込7名) すみのえ未来塾啓発動画を作成し、案内チラシに動画視聴用二次元コードを掲載。駅へのチラシ配架や区SNSによる広報を実施。	
	課題	方向性
	●プログラミング学習を前面に打ち出し、一定の参加実績はあったが、より多くの方に受講いただけるよう、学校や事業者など関係先とさらなる連携強化が必要である。	●学校の授業の一環としても実施できないか、学校や事業者など関係先との連携を図りながら検討していく。 ●令和7年度継続実施

進捗状況：予定通り

クローズアップ ―取組の解説―

■キャリア教育

- 「キャリア教育」とは、児童生徒一人ひとりのキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育です。
- 住之江区では、子どもたちがこれからの社会を生き抜くために必要なチャレンジ精神、創造性、探究心等を育むための体験を得る機会を創出していきたいと考えています。



キャリア教育事業の様子

経営課題1 子どもたちが輝くまちづくり

【具体的取組1-2-2】

チャレンジ精神や課題解決力を身につけたり、学習の目的を見つけたりする機会づくり

委員からのご意見

分類

対応方針

【部会】

●プログラミングが実生活においてどのように役立っているのかが分かる動画を2次元コードから誘導すれば、こどもたちの興味や理解がより深まると思う。また、動画視聴に至るまでのアプローチが重要であり、学校の先生や保護者の方に動画視聴に向けてご協力いただけるような取り組みをしてみてもどうか。

②

キャリア教育の一環として実施するすみのえ未来塾への参加者数の増加に向け、
プログラミングが実生活においてどのように関連するかなど、わかりやすく伝えられるよう動画の作成も含め、こどもたちに興味を持ってもらえるよう実施事業者と調整してまいります。
また、この動画を視聴いただけるよう、学校の先生などにも説明や働きかけを行ってまいります。



【部会】

●プログラミング学習については様々であるが、例えば簡単なホームページの作成等役に立つ楽しい体験型の学習メニューを充実させることで、こどもたちの興味や関心を高めてみてはどうか。

②

プログラミングの内容としては、体験型メニューを取り入れるなど、こどもたちの関心や興味を高められるように取り組んでまいります。

【部会】

●キャリア教育として、プログラミングのような体験学習もいいが、イベント等で自分たちが考えたブースを出すのもいいと思う。相手があればやる気も出るのではないかな。

④

学校の部活動等における日ごろの活動成果を発表する場の活用等について検討してまいります。

※分類

①既実施

④今後引き続き検討

②当該年度において対応予定

⑤対応困難または対応不可

③次年度運営方針に反映または次年度に対応予定

⑥その他